

令和4年度 教育課程研究協議会

【中学校 技術・家庭科部会】

【1】 学習指導要領の趣旨及び改善事項

- 1 改訂の趣旨
- 2 改訂の要点

【2】 指導と評価の一体化について

【3】 ICTを活用した授業改善



1 改訂の趣旨

技術・家庭科目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する**資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な**理解**を図るとともに、それらに係る**技能**を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして**課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現する**など、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする**実践的な態度**を養う。

1 改訂の趣旨

【技術分野】

- 技術分野では、**社会、環境及び経済といった複数の側面から技術を評価し具体的な活用方法を考え出す力**や、目的や条件に応じて設計したり、効率的な情報処理の手順を工夫したりする力の育成について課題がある。また、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができるよう、**技術を評価、選択、管理・運用、改良、応用すること**が求められる。

【家庭分野】

- 家庭分野では、**家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないこと**などに課題が見られる。また、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。

1 改訂の趣旨

技術・家庭科目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する**資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

資質・能力

- (1) 生活と技術についての基礎的な**理解**を図るとともに、それらに係る**技能**を身に付けるようにする。
知識及び技能
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして**課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現する**など、課題を解決する力を養う。
思考力、判断力、表現力等
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする**実践的な態度**を養う。
学びに向かう力、人間性等

2 改訂の要点

技術・家庭科
「見方・考え方」

どのような視点で物事を捉え、
どのような考え方で考えていくのか。

<技術の見方・考え方>

生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。

<生活の営みに係る見方・考え方>

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

見方・考え方の捉え よりよい生活の窓

協力協働

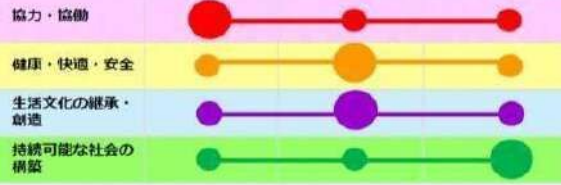
生活文化

B 食生活

【文化】
だし

自立し共に生きる生活の創造

家族・家庭生活 衣食住の生活 消費生活・環境



【健康】
減塩

【快適】
おいしく

健康快適安全

持続可能

見方・考え方の捉え 最適化の窓

社会要求

安全性

(例)
設計図
計画書
新技術



環境負荷

経済性

見方・考え方の捉え 最適化の窓

社会要求

安全性

【要求】
自動農業
システム

D 情報(1)

【安全】
セキュリティ



【環境】
持続可能
システム

【経済】
自動化

環境負荷

経済性

2 改訂の要点

学習指導及び内容の改善

技術分野

- ・「A 材料と加工の技術」「B 生物育成の技術」「C エネルギー変換の技術」「D 情報の技術」の四つに整理
- ・内容Bと内容Cの入れ替え
- ・学習活動と育成する資質・能力との関連を図れるよう、各内容は以下の内容の項目で構成 ※項目…(1)～(4)
- ◇生活や社会を支える技術 ◇技術による問題解決 ◇社会の発展と技術

家庭分野

- ・従前のA, B, C, Dの四つの内容を「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の三つの内容としている。
- ・各項目は、原則として「知識及び技能」の習得と、「思考力, 判断力, 表現力等」の育成に関する二つの指導事項A, イで構成
- ・小・中・高等学校の内容の系統性の明確化
- ・空間軸と時間軸の視点から学校段階別に学習対象の整理

2 改訂の要点

(2) 学習指導及び内容の改善

②履修についての改善

【家庭分野】

- ・「A家族・家庭生活」の(1)については、小学校家庭科の学習を踏まえ、家族・家庭の機能について扱うとともに、ガイダンスとして、第1学年の最初に履修させる。
- ・「生活の課題と実践」に係る「A家族・家庭生活」の(4), 「B衣食住の生活」の(7), 「C消費生活・環境」の(3)については、習得した知識及び技能などを実生活で活用するために、これらの三項目のうち、一以上を選択して履修させ、他の内容と関連を図り扱うこととしている。

ガイダンスの授業をイメージしてみましょう！

2 改訂の要点

(2) 学習指導及び内容の改善

②履修についての改善

【技術分野】

- ・第1学年の最初に扱う内容の「生活や社会を支える技術」の項目は、小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容としても指導する。
- ・第3学年で取り上げる内容の「技術による問題解決」の項目では、他の内容の技術も含めた統合的な問題について取り扱う。

ガイダンスの授業をイメージしてみましょう！

12

2 改訂の要点

(2) 学習指導及び内容の改善

③社会への対応

【技術分野】

- ・従前からの計測・制御に加えて、 [] を利用した [] のあるコンテンツに関するプログラミングについても取り上げる。加えて、情報セキュリティ等についても充実する。
- ・知的財産を創造、保護及び活用していこうとする態度や使用者・生産者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観の育成を重視する。

14

2 改訂の要点

(2) 学習指導及び内容の改善

③ 社会への対応

【家庭分野】

- ・「A 家族・家庭生活」: 幼児との触れ合い体験などを一層重視するとともに、**地域の人々と協働すること**に関する内容を新設している。
- ・「B衣食住の生活」: 調理の学習においては、小学校での「ゆでる、いためる」に加え、「**煮る、焼く、**」の調理方法を扱い、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるようにしている。
- ・「C消費生活・環境」: 「**計画的な金銭管理**」、「**消費者被害への対応**」に関する内容を新設する。

指導と評価の一体化



【育成を目指す資質・能力の3つの柱】

- 知識及び技能
- 思考力, 判断力, 表現力等
- 学びに向かう力, 人間性等

【観点別学習状況の評価】

(平成20年改訂)

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

指導と評価の一体化

(平成29年改訂)

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

指導と評価の一体化について

～技術・家庭科における評価のあり方について～



指導と評価の一体化

【観点別学習状況の評価】

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

どのように
評価をしていますか？

